

コラム執筆にあたって

医療・医薬品業界の潮目について、広い視野と水を感じとる魚の側線を持って読み解いていきたいと考えています。

仲野 豊

COLUMN < 魚眼と側線 >

Vol.1 【2012年の同時改定がターニングポイント？】

2009/02/23

医療業界と関連する薬業界等では今から2012年が大きなポイントになるだろうと言われていています。筆者も12-13年あたりが節目となると考えていますが、世間で言われている診療報酬・介護報酬のダブル改定があるからポイントという考え方には違和感を覚えます。

厚労省が一つの目標年度としている15年の姿を実現させていくため、この2年間で各種制度の見直しが実施されるはずです。その一つである「第5期介護保険事業計画」と「救急を含む急性期医療の新たな指針」が11年に検討・作成予定で、介護保険計画は12年から、急性期医療の新たな指針は13年からの次期医療計画に反映される見込みです。これらによって医療と介護の体系的な見直しが実施されます。さらに、早ければ12年から社会保障カードの運用が始まる見込みで、これによって医療の在り方が大きく転換するでしょう。また、レセプトのオンライン請求の完全実施予定もこの間に行われる予定です。

これら一連の制度見直しを具現化するツールとして、12年に介護報酬や診療報酬を同時に改定してインセンティブを付けていくわけです。最初に介護報酬や診療報酬改定ありきではないのです。改定の背景にある「目的」をきちんと理解しておかなければ、木を見て森を見ずになりかねません。

今後、医療や介護の分野で重要となるキーワードは“機能強化”だと思っています。従来の“機能分化”から一歩進んで、より特化した強固な機能が求められるでしょう。その結果、地域連携が自然発生的に起きてくるはずで、地域連携パスも様々なものが一挙に出来上がってくるでしょう。

このように各種制度の見直しは12-13年で終わりではなく、時代の社会環境の変化と共に数年に一度やってきます。12-13年の次の波は17-18年あたりにやって来るであろうと予測しています。様々な変化に対して、敏感かつ的確に対応できる体制づくりをしておくことが肝要です。(仲)